



地下鉄短信(第333号) 平成30年1月30日発行

編集 (一社)日本地下鉄協会 責任者 向田正博

電話 03-5577-5182(代) FAX 03-5577-5187



記事 ○ 平成30年「講演会」(主催:日本地下鉄協会)を開催

○ 平成30年「講演会」(主催:日本地下鉄協会)を開催しました。

去る1月25日(木)16時から、東京都千代田区麹町の「弘済会館」において、中央大学研究開発機構教授の秋山哲男氏を講師にお招きし、「地下鉄におけるバリアフリーの現状と将来展望」というテーマで、(一社)日本地下鉄協会の「平成30年 講演会」を開催しました。

講演会には、協会の会員を始め、協会関係者・関係団体等から120名を超える多くの方に参加いただく事が出来ました。

はじめに、主催者を代表して協会副会長の山手東京都交通局長からの挨拶の後、秋山教授に講演いただきました。

講師の秋山教授は、早くから障害者や高齢者の移動の問題に取り組み、我が国のユニバーサルデザインや交通バリアフリー研究の第一人者として、国土交通省や内閣府等の委員会への参画ばかりでなく、空港など交通施設を舞台にしたフィールドワーク、地域の街づくりの実践など、現場に根ざした研究にも携わっており、豊富な経験を踏まえた講演をしていただきました。

講演は、「地下鉄におけるバリアフリーの現状と将来展望」と題して行われ、急激な高齢化社会の到来が現実のものとなっている我が国において、障害者を含めただれでもが、安全・快適に利用できる地下鉄のユニバーサルデザインについて、様々な課題を取り上げ、分かりやすく解説していただきました。

冒頭に総論として、社会における障害者の位置づけ



挨拶する山手副会長



講師の秋山中央大学教授

が時代とともに変わってきたことと、ユニバーサルデザインの考え方についてのお話がありました。続いて各論として①IPC（国際パラリンピック委員会）基準とTokyo2020ガイドライン等の基準について（例としてエレベーターの大きさ）②音による情報提供（音サイン）③建築空間と案内（サイン）④案内システムとデジタルサイネージ（人による案内とITCを活用した案内）⑤トイレの課題⑥東京オリンピック・パラリンピック（1964年と2020年）というテーマについて、幅広い視点から講演いただきました。



聴講者で満員の会場

講演の中で、ユニバーサルデザインの考え方について「かつて、究極のユニバーサルデザインという事が議論になったことがあったが、ユニバーサルデザインとは常にスパイラルアップしていくものであり、究極というような終点はない」と言われ、利用者の立場に立ってより快適な地下鉄にしていく取組が大切である事を改めて考えさせられました。

秋山教授からは、当日講演で使用される資料を事前に頂戴し、印刷物として聴講者にお配りしましたが、実際の設備等の写真も豊富に使われており、86ページにも上る膨大な資料集は、聴取者がお持ち帰りになってバリアフリーに関する最新の資料として役立てられるものと思いました。

この後、講演会に参加した協会関係者に国や関係団体の方も交えて、総勢約200人の参加者で新年の挨拶会を兼ねた情報交換会が開かれました。

(注) 必要に応じ、社内へ転送、回覧などをお願いします。

配信先を変更又は追加した方がよい場合は、新しい配信先の職名、氏名及びメールアドレスをお知らせ下さい。

本短信について、ご意見をお寄せ下さい。

連絡先: mukaida@jmetro.or.jp